

rongorongongo

茨城キリスト教大学
文化交流学科

茨城キリスト教大学文学部文化交流学科 〒319-1295 茨城県日立市大みか町6-1-1 TEL 0294-52-3215 FAX 0294-52-3493

留学生は語る

今回は韓国からの交換留学生に一言ずつ書いてもらいました。

李龍雲 イ・ヨンウン

ホテルのマナージャーになる

日本に来てからもう二ヶ月がたちました。日本に来たことは初めてなのでいろいろなことが珍しいものばかりの毎日でした。今は日本の生活にもだいたい慣れて、25年間ずっとここで生きてきたような気さえします。日本語を学び始めたのは

大学一年生のときからですが、本格的に勉強を始めたのは一年半前からです。韓国で日本語は他の外国語に比べて学びやすいと言われていましたが、漢字や読仮名やそして外来語など、本当に覚えなければならぬことがたくさんあって、やはり外国語を学ぶのは難しいことだと思いまし

入学記念行事

筑波山登山に達成感—佐々木美和

5月12日から13日にかけて文化交流学科は、入学記念行事として筑波山に行ってきました。

私は、筑波山は以前登ったことがあったので大して構えていませんでしたが、思っていたより登るのは大変でした。見た目よりも急な坂が続く足場も悪く、日差しも強かったため、予想以上に時間がかかりました。友達と「あとどれ位かなー」「もう少しじゃないか？」という会話を何回したのか。最後のころは袋に入れたお弁当が縦になっても気にせず、「まだかー！」

と叫ぶか無言で登るかのどちらかでした。しかし、頂上に着いたときには大きな達成感を感じられ、現地に行つて体験することを重視する文化交流学科らしい企画だったと思います。宿泊所に着いて夜はゼミ対抗のクイズ大会「知的ゲーム」を行いました。内容は国際的な知識を問うものから学科の教授陣に関するトリビアまで幅広く、賞品もかかっていたので大いに盛り上がりました。それにしても「ドイツの高速道路にはETCが日本

た。そして、その思いは日本に来て勉強しながらもつと深くなりました。ですが私はホテルのマナージャーになるという夢のためにいっしょうけんめいここで勉強し、また、生活することをこの文を書くことで、もう一度誓います。頑張ります！そして一緒に日本に留学しに来たみんなもがんばりましょう!!



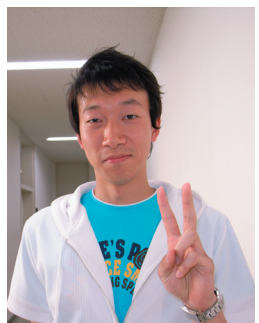
より完備している・ホント？ウソ？」という問題や「堀口先生はお見合い結婚である・ホント？ウソ？」なんて問題が出るとは。結果は森ゼミの優勝でした。そのとき惜しくも森先生は不在でしたが、そのお詫びとしてゼミ生はチョコ餅を頂いたそうです。雰囲気も盛り上がり、ゼミで集まって賞品のお菓子を皆で食べたり、学生と教授陣が打ち解けて話しているのが印象的でした。部屋では友達と集まって夜中までウノやトランプをし、朝食前にもするというのは旅行ならではで楽しかったです。騒ぎすぎて学校生活では普段見られない一面も見ることができ一泊

日本のドラマが面白い

禹重其 ウ・ジュンギ

アンニョンハセヨ!

日本のドラマが好きで日本語を習うことにした僕！それで日本に来て何よりもいいのが毎日テレビでドラマを見ることができるところです。韓国ではわざわざ自分でインターネットで探してダウンロードして見ました。もちろん好きだけども面倒だし、お金もかかったし、暇を割いて見なければならぬし、いろいろ不便でした。でも今は日本にいるから、本場にいるからとても楽です。



日本のドラマは韓国のドラマに比べてみると面白いところがたくさんあると思います。日本のドラマは週一回ずつなので一週間毎日違うドラマを見られるし、韓国ではほとんどない多様な主題のドラマがあるし、たいてい重くて暗くて悲しい韓国のドラマとは違い、

では短かすぎる時間でした。この行事の目的は「学生と教師との親睦を図る」とあり、学科の友達だけでなく、先生方との交流も深められた二日間でした。大学では主体的に勉強することが求められ、今までよりも多くの自己責任が伴いますが、先生方はそのうえで学生に「尊重された自己」として接してくれるのだと思いました。そのような目線を持つことが出来たのもこの行事で得たことのひとつです。山登りは大変だったけれども、



得るものも大きかった入学記念行事でした。「文化交流学科一年」

07年7月号目次

- 1〜3面 ◆交換留学生は語る
- この大学はいろいろな国の大学と交換留学制度を設けている。今回は韓国の明知大学から日本に留学している学生と、逆に明知大学に留学している学生にメッセージを寄せてもらった。
- 2〜3面 ◆沖縄大学に国内留学
- 4〜5面 ◆卒業生は今
- 最近の卒業生が仕事について語る。旅行業、日本語教員、ホテルマン。
- 4〜5面 ◆学科の先生方の夏
- 6〜7面 ◆任利先生インタビュー
- 中国語の任利先生に日中の文化比較などについて聞いた。
- 7面 ◆アジアンボランティア
- 8面 ◆就職活動実況中継
- ◆編集後記

文化的言語習慣を学びたい

金乳愛 キム・ユエ

こんにちは、私は韓国から来た留学生の金乳愛（キム ユエ）と申します。今年度ロンゴロンゴで紙面だけでも会えてとても嬉しいです。私は韓国のソウルにある明知（ミヨンジ）大学校で日語日文を専攻して勉強しています。一年間茨城キリスト教大学で文化交流学科の授業を取っていますのでよろしくお願ひします。

私が日本に留学することにした動機は一言で言えば「日本人らしい日本語をこなせるように」ということのためでした。韓国でももちろんいろいろな方面で日本語を勉強していますが、実際の会話でよく使う言葉とか、微妙なニュアンスの違い、そして文化的な言語の習慣のようなことはやはり日本で習ったほうがはるかにいいと思いました。特に、私は今年の一年の間に留学をしながら文化的な言語の習慣について勉強したいです。

実は外国人の私にとって難しいかもしれないが、これを分かったら日本人らしい日本語をこなせるようになるのではないかと思っています。そして文化交流に対しても、将来日本で就職するときも助かると思います。



これから一年間頑張ります。ありがとうございます。

韓国の授業といろいろ違う

兪大淵 ユ・デヨン

交換学生として韓国から来ました。日本に来てもう二ヶ月も過ぎてしまいました。来たばかりのときは何にも知らなくて何をしても不安でしたが、やっとこの生活にも慣れてきて、最近毎日を楽しむことができます。それで、短い言葉で短い期間ですが二ヶ月という日本での生活のなかで私が感じたいろいろなことを書いてみようと思います。

最初に授業に入って驚いたのは時間の問題でした。一時間25分という授業の時間。韓国の大学の授業は50分で中学校から大学まで同じです。なので35分も長い授業の時間は八年以上50分の授業に慣れていた私には非常にきつかったです。しかし授業が面白くない訳ではありません。むしろ日本の授業は韓国より自由で学生と先生のコミュニケーションが気楽にできています。それとこの授業は学生にいろいろな問題について考えさせて自分の考えを話させるようにしていて、社会でもちゃんとした一員として活躍できるようにしていると思いました。

もちろんこういう授業に慣れていない私は困ることが多いですし、知らない日本語もまだまだたくさんあって慌てることも多いです。特にニュアンスによって微妙に違った意味になる言葉とか文書でよく困ります。もともと私は日本語のニュアンスの違いに興味があつて日本に来たので楽しみながら頑張つて勉強しようと思つています。でもこのニュアンスの問題はやっぱり会話の中で感じる人が多いので日本の学生の皆さんといろいろ話し合ひな

日本に来てわかったこと

盧動珠 ノ・ドンジュ

交換留学生として日本に来てあつという間に二ヶ月目に入ろうとしています。最初に交換留学生の資格を取ったときの喜びと未知の世界に旅たつようなときめきが昔のことのように感じられます。



間違ひでした。

専攻として日本語と日本文学を勉強してきたのですが、実際に日本に来たことも、大学の先生以外には日本人と話しあう機会も、あまりありませんでした。そこで、私にとって日本という国は本やテレビ、映画の中で見られるイメージ的なものと、韓国人が普通に持っている偏見が融合したものでした。でもそれは大



がら教えてもらいたいなと思います。

韓国に帰るまでにもっと上手な、そしてもっと正しい日本語を使えるようになるために、これからも頑張ります！ 皆さんも私を見つけたら声をかけて勉強させて下さい！

日常生活に文化があふれている！

沖縄大学に国内留学

小松令奈

沖縄に来て、もう二ヶ月が経ちました。こちらでの生活にも慣れ、暑さにも負けず、毎日充実した日々を送っています。

今回私が国内留学を希望したのは、もっと多くのものを見て、自分の将来への視野を広げたいと思ったからです。文化交流学科に入学してから、ある先生（鬼のSで知られる）が授業でおっしゃっていた、「カルチャーショックを受けること」を自分の大学生活の目標に掲げ、一年次の夏に韓国へ短期留学をしたり、反ナチス学生運動・白バラ写真展のボランティアをしたり、自分から積極的に行動してきました。

様々な文化、国、歴史について知る中で、自分と比較し、また見つめなおすことができました。他を知るといことは、自分を再発見する機会でもあるのだと学びました。そんな中、ずっと気になっていた沖縄大学への国内留学を決断する時が来ました。一度決めたら実行しないと気がすまない性格の私は、親を説得し、沖縄行きを決めました。大学で初の試みということで、多少



エ・トミー



の不安もありました。しかしそれよりも、新しい環境で生活をする楽しみのの方が大きかったです。四月になり、いよいよ大学の授業が始まりました。初めはすごく緊張して、なかなか周りに馴染めずいました。しかし、みんな気さくに話しかけてきてくれて、だんだん友達も増えていきました。沖縄の人は下の名前で呼び合うので（自己紹介では名字を言わないことが多い）、とても親近感がわき、すぐに仲良くなれました。授業は、英語や沖縄に関するものが多いです。英語は一つの授業が週2回あるので、英語力を向上するためにとても有効だと思っています。今回の国内留学には、二人の先輩と一緒に来ています。文化交流学科三年の智代先輩と、直美先輩です。智代先輩はいつも明るく

韓国に来て三ヶ月、私の意識は大きく変わった

大田 千恵美

私がこの長期交換留学へ参加した理由は、将来日本語教員になるために自分には韓国語の能力が必要だったからである。韓国留学は大学入学からの目標であった。もちろん日本でも韓国語の勉強はできる。しかし、留学すれば韓国語以外にもその国の文化、生活習慣などを実際に肌で感じ、それまで以上にその国について考える機会ができるのである。

実際に韓国で生活してみると、今まで考えていたものとは違い戸惑う部分もある。しかし、日々まわりにいる人々に助けられ、今までこうして生活して来られた。韓国に来て三ヶ月、短いような時間だが、私の中の意識は大きく変わった。勉強に対する取り組み方や、日本にいる両親や友達に対する考え。特に両親に対しては、近くにいるのが



当たり前、してもらって当たり前だったのが、今は違う。そして、留学する前の目標は、長期交換留学で韓国へ行くことであった。しかし、それを達成した今、そのことに満足しているだけではないのである。なぜならば、留学することですべてが達成されたわけではないからである。

留学は、自分次第で一年後に得るものの大きさが変わる。そして、異国の地では待つことができるだけは何も得ることができない。韓国に来たばかりのころは、自分の韓国語に自信がなく、なるべくなら韓国語を使いたくないと考えていた。だが、それでは日本で勉強しているのと同じであり、韓国まで勉強しに来た意味がない。

今でも、自分の韓国語に自信がないのは同じである。しかし、最近韓国語の中に一人でも飛び込んでいけるようになった。人は考え方ひとつで大きく変わるものである。そして、一生懸命努力すれば、まわりも受け入れてくれる。留学に来て、本当にまわりの人々に恵まれた。日本人である私を、何の隔たりもなく迎え入れてくれる友達。至らない私の韓国語を一生懸命理解しようとしてくれる友達。いつも友達には支えてもらってばかりである。



そんな今の私の目標は、ものごとくに積極的に取り組むこと、時間を有効に使うことである。これは、簡単なように見えて難しい。しかし、一年もあるのではない、一年しか時間がないのだからやるしかない。今後、長期交換留学また

韓国では友情、愛情、家族への情が強いです

田中 千尋

韓国への留学は自分にとってしたいことのひとつだった。明知大学に留学することができて、とても嬉しく思っています。茨城キリスト教大学に入る前から、韓国には興味があり、入学してからも韓国学生との交流でより留学に意欲が沸きました。ドラマや映画、音楽でしか韓国のイメージがなかったのですが、留学

を通じて、今の韓国が見えてきたように思います。数年前の韓国と今の韓国の大きな違いといったら、物価だと思えます。数年前の韓国留学だったら、何もかもが安いと感じたでしょう。しかし、韓国の物価は上がっています。日本より高いものもたくさんあります。四月には、交通手段があるバスや地下鉄も値上が



は短期交換留学を考えている方々がいるのであれば、迷わず参加して欲しい。必ず自分にとってプラスになる。今しかできないことだから、できるときにしなければきつと後悔する。もし悩んでいるのなら、もう少し前に踏み出して欲しい。そうすれば、今までとは違う自分と出会うことができるし、道も開けるだろう。

人間関係においては、とても優しく接してくれるので居心地が良いです。しかし、私だけなのかはわかりませんが、「情」がないと言われました。韓国では、友情、愛情、家族への情が強いです。それに比べて日本人は情が薄いのは確かだと思いましたが、日本では普通に思っていたことが、韓国人からすると、情が薄いというようになることもありました。うわべだけの関係は嫌なので、情は厚く、親身に友達と付き合い合っていると思います。



楽しいことが大好きです。直美先輩は「ねえさん」の愛称で知られていて、まさにそんな感じですよ。そんな二人が三線部に入ると聞き、私も入ることにしました。三線は三味線よりもやや小ぶりの沖繩の楽器で、沖繩出身のアーティストの曲にもよく使われています。沖繩に来たからには、沖繩の文化を身につけて帰りたい! と思い、入部を決めました。初めて触る楽器に悪戦苦闘しながらも、だんだん慣れてきて、今では楽譜を見れば弾けるぐらいになりました。三線部の方々が温かく受け入れてくれて、楽しく練習しています。これからもっと練習して、いつか茨城の友達にお披露目したいと思っています。

もし少しでも興味があったり、今、韓国語を学んでいる学生は、留学ではなくても一度韓国に来てほしいと思います。やはり知識だけではないかと思いませんか。その場所に行かないと何も始まらないように感じ

て、楽しいことが大好きです。直美先輩は「ねえさん」の愛称で知られていて、まさにそんな感じですよ。そんな二人が三線部に入ると聞き、私も入ることにしました。三線は三味線よりもやや小ぶりの沖繩の楽器で、沖繩出身のアーティストの曲にもよく使われています。沖繩に来たからには、沖繩の文化を身につけて帰りたい! と思い、入部を決めました。初めて触る楽器に悪戦苦闘しながらも、だんだん慣れてきて、今では楽譜を見れば弾けるぐらいになりました。三線部の方々が温かく受け入れてくれて、楽しく練習しています。これからもっと練習して、いつか茨城の友達にお披露目したいと思っています。

初めて、母国への愛国心を抱くことができます。当たり前のものがなかったりするので、私には韓国に来て一ヶ月くらいで日本に懐かしさを感じ、「日本っていいな」と思いました。これは、旅行では感じず、長期留学だから思うことではないでしょうか。日本を感じることを、韓国を感じることを、両方の面で留学は良い機会だと思います。みなさんも留学を視野に入れて、学んでみてください。

沖繩に来て一番感じたのは、日常生活に文化が溢れました。留学は一年を韓国で過ごすことになるので、決断しにくいことかもしれませんが、肌で感じ、カルチャーショックを受けてこそ、文化は理解し得ると思います。思い込んでいたことが、留学に来ると実際は違うということも多いです。韓国に来て、韓国人だけでなく他国の学生との交流も自分への刺激になり、より多くの文化に触れることができるでしょう。それに、日本を離れては



て、楽しいことが大好きです。直美先輩は「ねえさん」の愛称で知られていて、まさにそんな感じですよ。そんな二人が三線部に入ると聞き、私も入ることにしました。三線は三味線よりもやや小ぶりの沖繩の楽器で、沖繩出身のアーティストの曲にもよく使われています。沖繩に来たからには、沖繩の文化を身につけて帰りたい! と思い、入部を決めました。初めて触る楽器に悪戦苦闘しながらも、だんだん慣れてきて、今では楽譜を見れば弾けるぐらいになりました。三線部の方々が温かく受け入れてくれて、楽しく練習しています。これからもっと練習して、いつか茨城の友達にお披露目したいと思っています。

旅行社で働く——ホーチミン

ベトナムを楽しもうという気持ちで
内山由佳子（07年3月卒）

卒業生は今

仕事は、主にツアーの申し込みの受付、空港への送迎、航空券の発券、日本の国際ボランティアの会社からの依頼の仕事（養護施設・日本語教師）で、日程決めや送迎、それからビザ配り、ガイド、ツアー企画などです。

会社の本店はバックパッカーが集まるデナム通りにあつてシンカフェの並びにあります。T.N.Kトラベル

と英語セクションで構成されています。日本人は八名ほど常駐しています。

この前五月中旬には初めてメコンデルタへのガイドに行ってきました。雨季に入り、朝から雨。お客様には小さいお子さんもいて大丈夫かなととても心配でした。私自身メコンデルタへは三回目。研修という研修はなく、ぶっつけ本番の添乗です。知識を無理やり押



し込んで添乗してきました。自分の国ではないので、様々な知識が必要とされる中、出ました！文化交流学科が得意とするお墓のネタ。お客様に「ベトナムのお墓ってどうなっているのかしら？」と聞かれたとき、学校で勉強した知識を絞り出して、説明しときました。

またお客様が迷わないように目を配って、また私もジャングルで迷わないように気をつけたり、どんな話をどのタイミングでしようかと考えたり、お客様は楽しんでるだろうかと思ったり、添乗って大変だなと実感しました。

このツアーに毎日添乗しているベトナム人日本語ガイドの苦労を知りました。ツアーが終わった後、お客様に「ありがとう」「楽しかったよ」「頑張ってるね」と言われるととても嬉しい気持ちになりますね。本当に印象深い出来事でした。

私がベトナムへ来た理由はベトナムへ一回旅行していたこと。求人を探していたら、求人があったので勢いで応募していたって感じです。最初は日本のことが

懐かしくて、家族や友達に会いたくて仕方がなかったです。けど、今は仕事にも慣れベトナムを楽しんでやるうという気持ちでいっぱい

ベトナムで生活するようになって、日本やベトナムのいいところも悪いところも感じられるようになりました。また旅行では味わえない日常を感じています。私もこれまでいろんな場所に行ってきましたが、それは非日常だったんだなと思ってしまう。地元の人と混じって屋台やレス

トランでおいしい料理をたべられていることに私は喜びを感じています。今までは旅先では体のことを考えて、あまり食べ物を楽しめていなかったからです。旅

の時には発見できなかったベトナム料理のおいしさを感じています。また毎日ベトナム人と接する中で、今までは見えなかったベトナム人の性格や考え方を理解することができて勉強させられる毎日です。

今後の仕事として、広告の営業活動があったり、結婚式ツアーなども考えてい

大変なだけ喜びも大きい

大森滋子（06年3月卒）

日本語を教える——東京

卒業生は今

今年度の四月から東京の日本語学校で非常勤講師として働いています。

日本語教師という仕事に高校生の時から興味がありました。本当にこの仕事をやるうと考えたのは自立にある「あんず」という日本語ボランティアに参加したのがきっかけでした。

日本にきている外国人の目的がさまざまなこと。そこが気になりました。自分のスキルを上げるために来日した留学生、親が日本人と結婚したために来た児童、研修員として来ている人な

ます。あとは日本語教師の資格を生かして、ガイドさんという話もあります。写真上・店で接客中 左・お客様とクチトンネルへ



す。大人相手なので練習にしても小学生の子供のような「飛行機と電車どちらが速い？」といった当たり前のことは練習できません。もし、あなたが学生だったら「そんな、当たり前のことと聞くな」と思うでしょう。外国人学生も同じです。

日本語教師という仕事は大変な分だけ喜びも大きいです。学生が文型を理解しやすく使っているのを耳にしたり、一週間の出来事を目をきらきら輝かせて話してくれるとき、この仕事についてよかったなと思えます。

日本語学校で日本語を勉強しようと思うと一月五〜七万円ぐらいかかります。この値段を皆さんは安いと思いますか。一日、二五〇〇円（五万円の場合）で四時間の授業です。安いと思う人もいるでしょう。しかし、彼らにとっては大金なのです。夜間のバイトで学費と生活費を稼ぎながら勉強する学生もいます。

また、学生と言っても年齢層はさまざま。仕事を引退してきた方や、高校卒業してすぐ日本に来た方、バックグラウンドも多様です。

人として彼らの支えになれるような教師を目指したいと思っています。大学生活四年間はあっという間です。興味があること、自分が好きなこと、どんなことでもいいです。いろんなことにチャレンジしてください。四年間で経験したことは必ずあなたにとって宝になります。

わたしの夏

森謙一

今年の夏は、とても忙しくなりそうです。7月末から上海・北京に行きます。8月3日に帰ってきて、5日から11日まで北海道調査に出かけます。12日から17日まで新盆のために秋田の妻の実家に行き、20日過ぎから9月3日まで沖縄に調査に行く予定です。9月5日から10日過ぎまで福岡の調査に出かけます。身体が持つかどうか、体力勝負の夏になりそうです。

わたしの夏

細谷瑞枝

せいぜい来週の予定を考えるのが精一杯、夏休みのことなんか考えられない！（泣）と、一人研究室でうなだれたところ、ありました！机の下のダンボール箱、塩野七生著『ローマ人の物語』全15巻。読み始めたら止まらないってことなので春休みに買って隠しておいたんです。これを読む、夏が楽しみ！

ホテル全体の広い知識が必要とされる
フロントの仕事

永井秀樹
(07年3月卒)

卒業生は今



フロントで接客——水戸

私は今年の3月に茨城キリスト教大学を卒業しました。そして現在は水戸駅南口のホリデイイン水戸というホテルのフロントで働いています。社会人になって働きだしてから二ヶ月経ちました。ホテルマンとしては実力も知識もまだまだ私ですが、社会に飛び込んでみて感じたことや、ホテルでの体験談などを簡単ですが話させていただきます。

もうほどの難しい作業に頭が痛くなりました。ホテルのフロントのイメージはチェックイン、チェックアウト、といった漠然としたものばかりで、働くまで具体的なイメージが湧きませんでした。ですので「働き出してからは「こんなこともやるの」といった印象でした。細かい仕事が網羅されている感じです。その中でも今一番苦戦しているものが「引継ぎ」という仕事です。24時間年中無休で動き続けているホテルは切れ目がないので、次のシフトの人達に自分達のシフトの時間帯に起こったことをすべて引き継がなければなりません。例えば「Aさん宛ての荷物がホテルに届いていて、重要なお荷物なので金庫に入れておきます」と引き継げば、次のシフトでお客様がお見えになられて「荷物届いてると思うんだけど」と言われたときに迅速に対応できるはずなんです。逆にしっかりと引継ぎがなされていないと荷物のある場所などわからず、あたふたしてお客様を大変お待たせしてしまう上に、クレームにも繋がる可能性があります。

臭、インターネット配線関係などの業者の方が行うようなこともフロントスタッフがやります。客室のトイレや配水管、配線の構造などを知っていないと、これらの仕事は出来ません。つまりどのセクションにも精通していないとフロントの仕事は勤まらないということになります。お客様が欲しがるホテルの情報はすべてフロントに問い合わせがきますので、そこで「わからない」は通用しません。ホテル全体の広い知識が必要になってきます。

これまではホテルの厳しさを中心に話してきましたが、もちろん魅力もたくさんあります。入社試験前にホテルの説明会で「この仕事のやりがいは何でしょうか？」という質問をしました。そのときに「良い接客、応対ができて、お客様からお礼を言われたときにやりがいを感じます」とお答えいただきました。正直な話、私は「それだけ？」と思いましたが、しかし、現場に入ってからさまざまな仕事をしていく中でお客様に「ありがとう」と言われたとき、この言葉のためにがんばる理由がわかった気がします。相手が喜んでくれることに自分がこんなに喜べることは初めてでした。もちろんクレームなどで落ち込む時もありますが、怒られたことではなく、注意していただいた内容に目を向ければ、また感謝できることもわかりました。そういうことも含めて、接客ビギナーの私にとっては今の職場は無料でさまざまな知識を教えてくれる学校のように思っています。その他にもさまざまな魅力があります。これがこれくらいにしておこうと思います。

私が就職のことを具体的に考え始めたのは三年の終わり頃からです。しかし積極的に就職活動を始めたのは四年の夏以降でした。このホテルに決めた理由としては、愛する故郷である水戸の魅力を伝えられることや、世界的なチェーンブランドということで質の高いサービスが身につくのではないかと考えたことがありました。と言いつつ、正直な話、私は自分がホテルに就職するなんて夢にも思っていないませんでした。もっと正直な話、私は接客が苦手なため、アルバイトもあまり

「引継ぎ」の大切さは十分に身にしみてきました。その他の仕事もまだまだありますが、特に意外だったものとして、客室の修理、消

私は大学生活の中で社会に対する不安をたくさん溜め込んでいました。きつと今の四年生、あるいは三年生も同じ気持ちの人はたくさんいると思います。でもきつと大丈夫です。まだ社会人歴二ヶ月の人間が偉そうに言えませんが、自分も家族、友人、お世話になった先生方の支えがあるからだと思います。特に大学の友人達は今現在同じ気持ちで頑張っているわけですから、是非大切にしてください。そして就職活動に、大学生活に悔いを残さず卒業できるようにがんばってください。

わたしは染谷智幸。8月5日〜17日、短期留学の引率で韓国の明知大学校へ。文化交流の2、3年生9人(全部女性です)を連れて行きます。向こうで今本学に留学中のユ・デヨン君が受け入れスタッフとして我々を迎えてくれます。その他は論文執筆・研究のために自宅と図書館の往復ですが、9月に大衆演劇の公演を見に行く予定です。

わたしは岩間信之。今年の夏休みに、中国と長崎に出かける予定です。中国行きは学芸会発表ですが、ついでに香港周辺を貧乏旅行してきます。激動する中国を体感してくるつもりです。長崎へは、調査のために出かけます。五島列島には、隠れキリシタン時代から続く美しい礼拝堂が、多数残されています。現在長崎県では、こうし

わたしは斎藤聖一。バンコクに行き、現地旅行会社と今年度の文化交流体験の打ち合わせをしています。履修希望者が多いため、このような配慮が必要だと判断しました。希望者が多いことは学科としてとても嬉しいことです。安全で実り多い研修になるようにしたいと思っています。

「引継ぎ」の大切さは十分に身にしみてきました。その他の仕事もまだまだありますが、特に意外だったものとして、客室の修理、消

わたしは堀口悟。今のところ夏の旅行計画はありません。家で論文を書いたり、香道や書の実地調査に日本国内の図書館等を訪ねたいと思っています。

わたしは猿田知之。これといった予定はありません。例によって例の如く、書物の森を彷徨して過ごすことになりましょう。なにぶんかの森は奥深く、迷い込んだら出られないので

わたしは堀口悟。今のところ夏の旅行計画はありません。家で論文を書いたり、香道や書の実地調査に日本国内の図書館等を訪ねたいと思っています。

わたしは猿田知之。これといった予定はありません。例によって例の如く、書物の森を彷徨して過ごすことになりましょう。なにぶんかの森は奥深く、迷い込んだら出られないので

わたしは堀口悟。今のところ夏の旅行計画はありません。家で論文を書いたり、香道や書の実地調査に日本国内の図書館等を訪ねたいと思っています。



任利先生インタビュー



今年から中国語担当の専任教員として赴任された任利先生に直撃インタビューを試みました。たっぷり時間をとっていただいたので、日本と中国の文化の違いや、留学や、母語である中国語を教えるという文化交流的体験の現場からの貴重なお話をうかがうことができました。分量的に一回では掲載できないので、二回に分けてお読みいただけます。「編集部」

はつきり言わない日本人 ストレートにぶつかるとなる中国人

日本人ははつきり言わない日本人ははつきり言わない。人を傷つけないように、うすぐく気を使いながら話しますよ。中国人ははつきり言つて欲しい。日本人はなんと、言つても思いやり・尊敬ですよ。中国人はストレートな物の言い方を好みます。親しくなるともっとストレートになります。

学会で何か発表する際、中国人は何か間違いに気づいたらその場で指摘してもらいたい。でも日本人に聞いたら「そういう場合は後で質問するほうがいいんじゃない？」と言われる。日本ではやはりその場で言われるのは恥ずかしい。

い。日本人は争いごとを避けるために自分の意思を殺します。中国人はたとえ自分の発言によって相手の怒りを買ひ、ケンカになつてしまふようなときでも、自分の意思をはつきり伝えます。

中国人はホントにチャンスをつかむ中国人。チャンスをつかむ日本人。中国人はホントにチャンスをつかむというのが強くて、日本人はどちらかというと「待つ」ですよ。待つてたらきつとチャンスは回ってくるんじゃないか。「待つてたらきつと自分の番が回ってくる」というそういう感じしますよ。ね。待つてたら先生はきつと自分

「中国人は自分勝手」?!

日本人の大学院生は院生として長く在籍して待つてくる感じですが、中国人の考え方はとにかく早く学位を取つて就職して、働きながら研究を続けるという感じ。でも日本の学生は自分のチャンスが回つてくるのを待つてる気がします。ずっと先生の下で院生として研究を続けていたから、いつかチャンスが回ってくるんじゃないか。私たちがどこかの学会にチャンスがあれば積極的に応募して発表して雑誌に投稿します。しかし日本人の学生はむしろ先生の指導を待つて、先生の許可をもらわないと外へは出られないといった暗黙の了解があるみたい。「中国人は自分勝手」みたいなこと言われて、それでカルチャーショックをうけました。

号では車通らないじゃないですか。中国ってそういういい面と悪い面はあるんですけど。

自分の合理主義・大雑把

日本人は中国人とつき合う時に、「中国人はルールを守らない、ルール自体が無い」、そう思っている人多いと思いますよ。これは今の中国が発展途中だからとかそういう中で出てきた問題ではなく、中国は伝統的にこういうことあるんですよ。

日本人と中国人の考え方は違います。すごい簡単に言うと中国人は信号をぜんぜん守らないです。それはなぜかという、信号をちゃんと守ることよりも、ちょっと歩けばその先の時間を自分のものとして使えますね、そつちを大切にします。だから自分の合理主義。自分が都合がよければ動く。日本人はすぐルールを守る、交通ルールみたいに。大獲のあたりで赤信号

なんとといっても、小さなことにこだわらない、ものごとは大雑把にという感じ。例えば日本語では「これ・それ・あれ」といった言葉を使い分けませんよ。中国語でも違う言葉としてあることはあるんですけど、実際はどちらもいいんです。だから私達中国人は日本人の「これ・あれ・あれ」の感覚はよくわからないんです。

自分の合理主義・大雑把

日本人ははつきり言わない日本人ははつきり言わない。人を傷つけないように、うすぐく気を使いながら話しますよ。中国人ははつきり言つて欲しい。日本人はなんと、言つても思いやり・尊敬ですよ。中国人はストレートな物の言い方を好みます。親しくなるともっとストレートになります。

日本人ははつきり言わない日本人ははつきり言わない。人を傷つけないように、うすぐく気を使いながら話しますよ。中国人ははつきり言つて欲しい。日本人はなんと、言つても思いやり・尊敬ですよ。中国人はストレートな物の言い方を好みます。親しくなるともっとストレートになります。

料入れたらもう少しよくなるんじゃないですか？」と言われた時です。なぜか日本でそういうことをやると日本人の口に合うように作るというか。そういうことがあると、日本人にとって国際交流を楽しむとは本当はどういうことですか？とか思つてしまいますよ。ね。やっぱり中華だけでなく、インド人が作ったカレーとかもやっぱり使つてるスパイスが日本のものと違うからしょうがないんですよ。生々しい文化、これは食文化だけでなく、なんでもそうなんですけど、日本人はそういうものを前にすると怖いというイメージがあるんじゃないですか。だからそれを自分たちでアレンジして自分たちのものにするんじゃないでしょうか。

中国語の授業

私は頭の中ではうすぐく迷つています。中国の本当の生々しい文化とか言葉とかを教えることに抵抗があります。教科書を選択したときも生々しい中国語を教えるとしたら全然進められないと思つてますよ。だからやっぱり解説が全部日本語の教科書を選択したんですけども、そのときもうすぐく悩みました。実際に教えながらもうそういう問題があります。日本の大学で教えるのは初めてなんですけども、ある程度まだ実験段階です。

翻訳文化

私も日本人はアレンジが好きで、私の大学の先生が言っていたんですけど、日本人は翻訳が好きで新しい本が出ると海外の本でもすぐに読むことが出来る。しかも全部日本語バージョン！だから情報を早く手にすることが出来ます。これは日本の本場に素晴らしいことの一つだと私は思っています。

逆になら中国は外からの影響を受け入れるのが怖いという感じがするかも。けれども、昔から日本は中国から漢字を輸入したり漢方薬入れたり、とにかくその当時の新しいものを受け入れる姿勢があつた。それをアレンジしてできたのが日本語です。それから明治維新あたりで、進んでた欧米のいろんなものを輸入してアレンジして自分のものにしてきたわけなんです。うすぐくそういう意味で中国の人は尊敬しなきゃいけない部分だと思つてます。新しいものに対して恐がらない。中国はむしろそういう点がまだまだだと思つてます。

日本人ははつきり言わない日本人ははつきり言わない。人を傷つけないように、うすぐく気を使いながら話しますよ。中国人ははつきり言つて欲しい。日本人はなんと、言つても思いやり・尊敬ですよ。中国人はストレートな物の言い方を好みます。親しくなるともっとストレートになります。

日本人ははつきり言わない日本人ははつきり言わない。人を傷つけないように、うすぐく気を使いながら話しますよ。中国人ははつきり言つて欲しい。日本人はなんと、言つても思いやり・尊敬ですよ。中国人はストレートな物の言い方を好みます。親しくなるともっとストレートになります。

アジアンボランティア・サポート基金 カンボジア日本語・英語教育ボランティア アジアンバザール

アジアンボランティア・サポート基金第V期の募金キャンペーンが6月11日から二週間、学内の生協食堂および学生ラウンジで行われました。

この夏、カンボジアでのボランティア活動に行く学生が中心となり、こうした活動になるべく多くの人に関心を持ってもらいたいということで実施しました。募金は毎年6月と12月に行っています。この基金は05年に始まりました。前年末のスマトラ沖大地震の巨大津波による被災地支援に出かける卒業生を、学園内外の有志で支えようではないかというところで始まりました。その卒業生は、一年間の活動を終



ご協力に感謝!

えて帰国しました。が、今年末からは、青年海外協力隊でキルギスに行くことになったのとです。

第V期の募金活動では現時点で一十万円ほどの寄付が寄せられました。カンボジアでの日本語・英語教育ボランティアなどを援助する資金とさせていただきます。

カンボジア日本友好学園で実施する夏のプログラムは、本学学生九名、他大生二名、同行教員ハリス・アイヴズ、藤田悟の計一三名で行うことになり準備を進めています。藤田の友人で算数の学習法を開発した平井雷太氏のグループ四名も前半参加ということですので、かなりの大きなグループになりました。

今年の新しいことといえば、アイヴズ教授の参加と現代英語学科の学生の一団が参加することで、英語教育の充実が期待できます。

また、友好学園でのプログラムの前後に、プノンペン人のスラムで活動している人たちのところを見学させてもらおうというアイデアも出ています。

IC-ANN

中国語の授業はまだ 何か反応が欲しいです 実験段階

と言うんですけど皆さん質問してくれないです。中国では質問すごくたくさんあります。変な質問もたくさんあります。「なんで?なんで?」と質問ばかりで先生が怖いと感じるくらいです。日本の学生は外国語を勉強するのが恥ずかしいんですね、きつと。

最近私が気づいたのは一人ではなくてグループで答えてもらうということ。このグループの人はここ答えてください」とか、そうすると答えてくれるので、日本の人はもしかすると歌でいったら合唱が好きで、独唱が苦手なんじゃないかなと思います。みんな一緒になると怖くないような。一人でやっても

問うとすると、もう答えが来て、しかもあつて

るんですけど言えないような場面がたくさんありますね。だから「一、二、三、はい一緒に!」っていうふう

にやっています。

質問されたらやっぱり嬉しくて。教える側と学ぶ側はお互いに影響がありますよね。だからやっぱり一方的になっちゃいけないと思うし、何か反応が欲しいです。それでそのまま進んでしまつとだんだん不安が出てきて「本当に先週の内容は大丈夫か?」とかいつも授業を準備するときは悩んでいます。

楽しくやってちゃんと使

この活動も、年を重ねるごとに余裕が出てきて新しい工夫が出来るようになってきました。

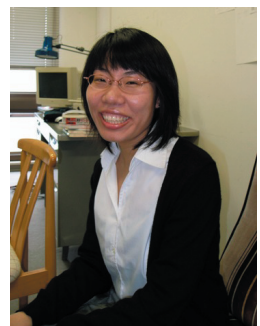
帰国後の10月には帰国報告会を開く予定ですので、ぜひおいでください。

秋の学園祭では、もう恒例になったアジアンバザールを開きます。ボランティア活動などで出かけた際に現地で購入したエスニック

グッズを大々的に販売します。同時に、ボランティア活動の記録を展示したり、パンフレットを配布したりします。例年人気のアジアンカフェもご期待ください。

以上のような活動をまとめてICANNの活動と呼んでいます。

IC 茨城キリスト教大学 A 2 アジアン



えるような中国語のクラスにしたいです。

それで、教科書はなるべく読むような形にして、でもやっぱり私も日本語を勉強して思うんですけどどんなに読むよりも聞いたほうが早いですよ。この

いう場面でこういう表現してた。志賀先生は今日こんな話してた」とか。それで今度は「〇〇先生と話す時はこういう話し方してみよう」とかそういうふうに使っていかないと、買った

N 2 ネイバーフード N 2 ネットワークの頭文字です。

私たちのアジア人としての自覚を刺激したいということからこのように名づけました。

関心のある方のいろいろな形で参加をいつでも求めています。「藤田記」

連絡先 icann@hotmail.co.jp

靴下をそのままタンスの引き出しにしまっておくような状態になってしまいますからね。

まあそういうふうになつても後々仕事か何かで中国語を使うことが出来る場面に遭遇するかもしれないじゃないですか。だから教科書は捨てないで!!と言いたいです。そういう中国語を使う場面にならなくとも、例えば何年か経った後に教科書を見て「大学の時の中国語のクラスは楽しかったなあ」とか思い出してくれば十分な気もしますけど。

出来るだけ生々しい中国語を教えられるようにしたいです。「あんな中国人の先生いたなあ、あの先生の中国語のクラスは生々しかったですなあ」って思っても

が一番大事ですから。

言葉というのは自分が面白いと思わないとなかなか分らないものだと思います。すし、皆さんの脳はまだまだやわらかいですからね、それでどんどん吸収していつか使えるかも知れない。言語を学ぶということは道と似ているような気がしますが。迷路のような道を進むことを皆さんには楽しんでもらいたいです。(つづく)

【インタビュー・田中修介 文責・編集部】

就職活動

実況中継!

沼田庄平

私は昨年11月下旬から就職活動をスタートさせました。まず、自分が名前を知っている会社に就職サイトからしらみつぶしにエントリーという作業を行いました。エントリーしただけで少し満足してしまい、2月まで何もしないで過ごしてしまいました。2月になり、「リクナビLIVE」という就職イベントに参加して、本格的に就職活動を開始しました。「リクナビLIVE」は東京ビッグサイトで行われ、すごい数の学生が参加していて、とても圧倒されてしまいました。結局その日は就職活動ってこんな感じなんだという雰囲気だけを味わってききました。

2月中旬に入り大手企業の選考が始まり、私はWEBエントリーシートを書き始めました。さすがに大手企業は大人気なので、このWEBエントリーシートで書類選考を通過しなければ会社説明会にも参加させてくれません。私は10数社のWEBエントリーシートを徹夜で書き上げ送信しましたが、各会社の返事は決

まって「誠に遺憾ながら選考を見合わせて頂きます」という返事でした。

結局エントリーシートは一社も通過することが出来ず、私は大手企業への就職を断念し、中堅企業への就職に切り替えました。

3月になり各会社の会社説明会が盛んに開催されるようになり、私は東京へ就職活動に行く機会が多くなりました。朝早くフレッシュユビたちに乗り込み、上野から地下鉄で会社説明会に向かいます。茨城で育った私は東京の人の多さに目が回り、それだけでうんざりしてしまいました。会社説明会では六大学の連中が分けの分からない質問を延々と会社の採用担当者に投げかけていました。私はそんなやり取りをぼんやりと観察していました。

4月になり茨城の会社も採用活動が活発になりました。4月、5月中には内定を一つでももらいたいと考えていましたので、自分が働きたいと思う会社の説明会には積極的に参加しました。茨城の企業の会社説明会では、会社に対しての学

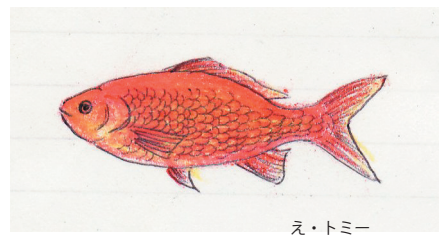
生の質問が、私の理解できる内容でした。東京の会社とは違いアウェイな感覚がなかったのも、私も会社説明会では最低でもひとつは質問できるようになりまし

4月中旬に入り、採用試験の予定が手帳に書き込まれるようになりました。一次試験は筆記試験です。この筆記試験は一般常識やSPIといったものが出題されました。この筆記試験はあまりできなくても通過できるようで、受験したほとんどの会社は筆記試験を通過できませんでした(職種によって差があると思います)。

5月に入り二次試験の面接試験を頻繁に受験するようになりました。個人面接ならまだいいのですが、グループディスカッションや集団面接といった、他の学生と直接比べられてしまう嫌な試験があります。あまり人前で話す機会が今までなかった私にとって、これ

ほど苦手なものはありませんでした。案の定、私の初集団面接はボロボロでした。何を話したのかも覚えていないほどです。私はこの集団面接という壁にぶつかり、就職に対して危機感を覚えました。

そんな壁に足止めをくらっている間に、内定の無いまま6月になってしまいました。当初の目標は達成することができませんでしたが、しかし、悪いことばかりではなかったと思っております。面接試験を受験していきうちに面接に慣れてきて、言いたいことを言えるようになってきました。集団面接も通過できたところもありました。私はここ数ヶ月で少しだけ、人間的に成長できたと思っています。本来なら内定をもらった人がこの記事を書いたほうが、二、三年生の皆さんには参考になると思うのですが、あえて就職活動実況中継ということで、内定の無い、お手本にはならない私の就職活動記録を書かせていただきました。



エ・トミー

この記事を書いている今日は6月15日です。明日も、来週も就職活動の予定が入っています。これから悔いの無いように、就職活動を楽しんでやっていきたいと思っています。できれば夏休みまでには内定をもらいたいな……。

編集後記

◆実家が栃木の上三川という町にあって、大鷲から車で約二時間程の所なんですけど、運転していると暇で……。それで景色とか眺めてるんです。御前山とか茂木には結構古い日本式の家がちらほらあるんですよ。そういう建物の前を通る度に「ああ、いいなあ、縁側でお茶飲みたいなあ」とか考えてしまってます。

私の中で縁側のホットシーズンは「春先の晴れた日」と「お盆」なのですが、今年の夏はカンボジアに出かけるつもりなので日本の Bonfire に参加できないのが残念です。Festival と言いましたが別に盆踊りの会場に行きたいわけではなくて、超田舎で親戚が集まって昼間からビール飲んで油で揚げた饅頭とか食ったり、適当に墓参りしたり、という雰囲気に触れたいだけなのです……。去年も一昨年も「お預け」でした!! あんまり恋しいので「大鷲饅頭」を油で揚げてみました! でも何か物足りない。きつとあの「盆」の時にしか感じるののできない何かがあるように思われます。「盆と正月が一緒に来たような気分」という表現をたまに耳にしますが、そんなことはあってはならない!! 私はずっかり盆を楽しみたい派です。

来年こそファンタスティックな盆が待っているはず!! 待つてろよ盆!! 【田中悠介】

◆最近、暇なときはファミコンをたしなんでいます。そして、懐かしい思いにひたっています。少し前に押入れに

眠っていたのを発見しました。皆さん知っていると思いますが、ファミコン(ファミリーコンピュータ)は一九八三年に任天堂より発売された家庭用ゲーム機です。私が生まれたのが一九八五年ですから、私よりも年上です。私がファミコンに夢中になっていたのは、幼稚園〜小学生低学年のころでした。そのころは、近所のタカシ君と一緒にファミコンをやったものです。『高橋名人の冒険島』がなかなかクリアできず、夏の暑い日に夕飯の時間まで二人で攻略していたことを思い出します。現在の大容量のゲーム機からすると比較にならないほど単純な内容ですが、今のゲーム機に負けない面白いソフトがたくさんありました。皆さんも押入れに眠っているファミコンを引っ張り出して、レトロゲームに癒されてみてください。少年時代の友達の名前を思い出したりするかも知れませんよ!

【沼田庄平】

◆早いもので今年も半年が過ぎました。いやいや、本当に早い。今年の目標を立てなかったため、残り半年の目標を立てようと思えます。えーと、私小学生の時に水泳教室に通い始めたのですが、間もなく中耳炎になりまして、そのままプールを去りました。

なのでめっきりのカナツチなにございます。そろそろ浮き輪離れたい年頃なので残り半年で独り立ちしようと思いい立ちました。あ! ついでに身も軽くなりそうですね! ついでついで! ☆: 残り半年のうちには必ず、はい。いや、時がたつのは本当に早いですよね。焦。【戸田亜希子】

◆新しく楽器を始めたいと思最近ベースを購入しました。友人と色が被ったのもあり、黒地に白い模様ベースに「シヤチ」と名付けてほんの少しずつですが練習している今日この頃です。そういうえば、小さい頃に水族館で観たイルカのショーでは前列に座ったため水を被ってビショビショになった思い出があります。服を濡らしたので親には叱られました。今となってはいい思い出です。

ロンゴロンゴ編集部は水曜日の二限目に三号館五階の藤田研究室で活動しています! 主に記事の内容を話し合ったり、掲載用に写真を撮ったり、原稿を書いたり依頼したり、レイアウトを考えたりなど……色々できて毎回楽しいです! 後期にはバイト代も出るそうです。興味を持ってくれたあなた! いつでも見に来てください! ☆【佐々木美和】

ロンゴロンゴとは南太平洋ポリネシアのイースター島で昔作られていた「物を言う板」です。この板には文字のようなものが書いてありましたが、この文字はまだ解読されていないようですが、これは島の人々に歴史や情報を伝える板でした。